

# リーディングDXスクール事業【実践事例】

松江市立義務教育学校玉湯学園

## 【取組内容⑤】 学校外関係者とのリアルタイム情報共有(Googleアカウントの発行とGoogleクラスルームへの招待)

校内でのICT活用を進めるために、様々な人の支援を得るとともに、Googleアカウントを発行し、効率よく打合せを行った。

### ①大学生のICTボランティア

- ・ 児童生徒のタブレット操作スキルには個人差が大きく、低学年ではとくに操作に慣れるまでにサポートが必要となる。
- ・ 授業中の個々のサポートは、授業者だけでは限界があり、地域の大学生6人にICTボランティアをお願いした。
- ・ 大学生はいずれも教職志望の4年生で、現場経験を積みたいという学生の要望とも一致して実現した。
- ・ 大学での授業を踏まえ、ローテーションで週3日午前中にボランティアに入ってもらった。
- ・ ICTをボランティアをしてもらうにあたり、教育委員会より指導講師を派遣してもらい、研修の機会をもった上でスタートした。
- ・ この大学生ボランティア6名との連携を容易にするため、Googleアカウントを発行しクラスルームに招待し、日程調整、サポートを依頼したい内容や、学生からの回答にスプレッドシートを使うことで、調整コストが激減し、効率的にサポートしてもらうことができた。



### ②大学の先生や教育委員会との情報共有

- ・ 大学の先生や教育委員会の方をクラスルームに招待し、リアルタイムに情報共有を行った。
- また、質問やアドバイス等の双方向でのやりとりが容易に行えるようになった。



松江市教育委員会学校教育課  
1月24日

先生  
市教委アカウント情報を送ります。  
ご確認いただき、資料の共有をお願いします。  
ユーザ名：  
市教委



大学の先生からのアドバイス

23:55 8月16日

行きたい場所を決めるのは、冒険に類々おすめめの場所から決めるのでしょうか？それとも自分のこれまでの経験から決めるのでしょうか？

13:24 8月17日

具体的な相談（お気配りの場所と約）の発表会を冒険に類々おすめめの場所から決めるのと一緒に行います。玉湯町を全部回るのには時間的に難しいため、〇〇方面というようにざっと行く場所をグループ分けします。発表会をしなから、担任は期間の一つ一つの場所の付箋をばります。（子どもたちに見えように）そこから、アカウントを取り（第三希望まで）人間関係等で考えながら行きたい場所を決める予定です。

授業者の返答